

会議名	令和4年度第1回 芦屋町住民参画推進会議		会場	芦屋町役場 31 会議室		
日時	令和4年7月21日(木) 19:00~20:00					
件名・議題	1 「情報ガイドブック」に関する令和3年度取り組み実績について 2 その他					
委員の出欠	委員長	大島 まな	出	岩崎 眞樹	出	
	副委員長	片山 和夫	欠	福島 直人	出	
		石川 智雄	出	丹生 愛子	出	
		福原 光次	出	倉田 智美	出	
		長沢 正行	出			
合意・決定事項	○令和3年度の取り組み実績について情報共有を行った。					

# 令和4年度第1回住民参画推進会議議事録（概要）

## 1 開 会

大島委員長あいさつ

日本においても、世界においても、いろいろなことが起こり、改めて一人ひとりが政治等のことを考え、様々なことに参画することの大切さを考えさせられている。参画をするための仕組みや、参画する意識を持つことの大切さを改めて認識した。

委員の皆様は芦屋町のいろいろな立場で活動をされている。忌憚のないご意見をいただきたいと思うので、よろしく願います。

## 2 委員の紹介

事務局より、委員1名の辞退に関する報告及び事務局職員変更に伴う自己紹介を行った。

## 3 議 事

### (1) 「情報ガイドブック」に関する令和3年度取り組み実績について

#### 【事務局による説明】

資料により、「情報ガイドブック」に関する令和3年度取り組み実績について報告した。

#### 【質疑・意見等】

〈委員〉

広報あしやの原稿の締切が早いのではないかと。

〈事務局〉

締切は発行日の約40日前を締切としている。ただし、これは原則の締切である。案件によっては締切後でも掲載が可能であるため、相談をいただければと思う。

〈委員〉

地域情報伝達システムの戸別受信機については、人によっては箱に入れたまま、スイッチを入れていない等、活用されていない実態があるようだ。調査を行う必要があるのではないかと。

〈事務局〉

戸別受信機については、総務課庶務係の担当となっているため、活用率等の調査を行っているか、把握できていない。本会議で、このような意見があったことを担当係に伝える。

〈委員〉

自治区の加入について、加入率が年々下がっている。どのような人が入っていないかを調べ、どのようにしたら加入するか、検討する必要があるのではないかと。また、自治区の役員になることが負担で、自治区に入らない人がいる。役員になってもいいと思える処遇が必要ではないかと。

〈事務局〉

どのような人が加入していないかについて、担当係の環境住宅課地域振興・交通係が調査を行っているか、把握できていない。本会議で、このような意見があったことを担当係に伝える。ただし、役員の処遇については自治区の判断になってくると考える。

〈委員〉

それぞれの区で事情があると思う。区によっては、特定の条件を満たせば、役員を免除される「特別区民」の制度を設け、役を担うことが負担となって脱退することを防ぐための対策をしている。

空き家についてだが、年配の人が入居されることがある。年配の人が芦屋町の空き家に転入した際の補助制度も検討してほしい。

〈事務局〉

現状として、子育て世帯等の補助制度が中心となっている。今後、新たな層に向けた補助金を創設した場合は、自治区加入について要件とすることも考えられるが、そのような補助金を創設するかは、ここで回答することはできない。

〈委員〉

子育て世帯等の補助金を受けるためには『自治区所属証明書』が必要なため、少しは加入が進んだと思う。ただ、転居してきたという情報が入ってこないため、区長から面談を行うことが難しい状況である。情報提供も検討してほしい。

〈委員長〉

自治区は地域コミュニティの基礎である。見守りや助け合い等を一緒に行うことが住民参画にもつながる。今回このようなご意見があったことは、事務局から担当係に伝えてほしい。

〈委員〉

区によっては組長の輪番等問題なく行えている区もある。各区に、自治区の活動について意識の高い人がいるかどうかの問題もある。高齢で活動ができなくなり、脱退するケースもあるため、その点の対策を検討しなければいけない。

〈委員〉

新たに芦屋町に転入したら補助金等があるが、前からいる人はそれがなく、役だけ回ってくる。そのような壮年期等の住民への対策を考えてほしい。

〈委員長〉

自治区とは何か、を考える必要がある。災害等の際、地域のつながりが大切である。子育てをするうえでも、地域で見守りをしてもらっている。恩恵を受けているが気づいていない人もいるのではないかと思う。

〈事務局〉

自治区に関しては区長会が主体となるため、区長会で取りまとめて、町へ意見をもらえらると思う。

〈委員長〉

地域情報伝達システムの戸別受信機について、いい取り組みだと思う。必要な情報がタイムリーに入る仕組みのため、使用率を上げてほしいと思う。

芦屋港活性化・機運醸成事業に関するワークショップを行っていると思うが、どのような人が何名ほど参加したのか。

〈事務局〉

改めて担当係に内容を確認し、後日報告する。

～後日、担当係に確認した内容～

ワークショップでは、今後のレジャー港化及び観光まちづくりにおけるキーパーソンとなる人材育成を目的に開催した。このため、参加者は芦屋町の観光振興に意欲のある方や影響力のある方を選出。芦屋町観光協会職員、芦屋釜鋳物師、漁業従事者、農業従事者、芦屋産品通販事業経営者、地域おこし協力隊、地域おこし協力隊OBの7名を構

成員とした。各回のワークショップ参加者は、個々の事情により欠席があり、それぞれ6名であった。なお、当初は、プレイヤー人材にも対象を広げる予定であったが、コロナの感染状況（第6波）を考慮した。（詳細は別添資料『【参考資料】芦屋港活性化機運醸成に向けたワークショップ』を参照。）

## （2）その他

### 【事務局より説明】

#### 事務連絡

○次回の会議は令和5年2月～3月開催予定。